

大津小便り

平成二十八年
六月九日(木)
NO.三
文責 吉良智恵美

運動会、順延でしたが、大成功。
応援ありがとうございました。

五月二十九日(日)に予定していた運動会は、雨天のために翌日へ順延となりましたが、月曜日の朝六時には、保健委員やPTA執行部の皆さんが大勢来ていただき、本校職員と共に運動場の整備等をして下さいました。お陰で予定通りの午前九時には、運動会を開会することができました。

今年は、子どもたちの負担や練習期間を考慮して少し内容や時間を縮小したプログラムでしたが、それを感じさせない子どもたちの一生懸命な姿が運動場に繰り広げられました。いつもなら昼から始まる各団対抗の応援合戦も午前の山場に設定。本校の応援合戦名物は、応援団の後ろに控える一年から六年までのバックアップ集団です。応援団の演技に合わせ声を出したり、ウエーブを演出したり歌ったり、予行練習の時からさらにグレイドアップした迫力は、見ている側の胸を熱くします。応援団のリーダーシップも見事でした。午前の最後は、中学年のソーラン。運動会の最後は、高学年のダンス「未来へガッツ」。どちらも練習の成果を見せつけるすばらしい演技でした。スローガンどおりの姿でした。

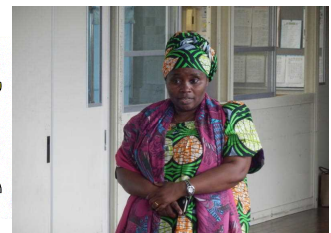


また、今年の特別イベントとして、南阿蘇西小の保護者も交え、子どもたち対大人の大玉送り競争を実施しました。一対一で迎えた決勝では、僅差で子どもたちの勝利。大賑わいでした。その場で参加していただいた保護者の皆さん、ありがとうございました。

友情・努力・笑顔
今こそ一致団結
心一つに
大津っ子
がまだせ熊本

子どもたちにとって「いつもの運動会」を開催できました。このことが、地震で変わってしまった子どもたちの日常を、今後、少しずつ元に戻すきっかけになればと思います。今週は、スポーツテストや内科検診と、遅れたスケジュールを取り戻すのに忙しい子どもたちですが、みんな元気に過ごしています。朝の挨拶も、昨年以上に「立ち止まり挨拶」ができています。

二年前、本校で講話をして頂いたマリーさん。熊本地震のことを聞き、どうしても子どもたちに会いたい、わざわざ来て下さいました。ルワンダの内戦で、三人の子どもと命がけで難民キャンプに辿りついたマリーさんは、その後、留学時の福島の知り合いの助けで来日し、現在は、ユニセフを通じてルワンダに学校を建てるなどの活動をされています。東日本大震災でも被災されており「命が一番大事です。命があれば、必ず素敵な未来があることを私は知りました。友だちを大切に、そして、学べることに感謝して、がんばってください。」とそれぞれの学年で話をして下さいました。なお、ルワンダのコーヒーを売り、その収益金をお見舞い金でいただきました。本当に、ありがとうございました。



マリー・ルイズさんが来てくれました。

今週から、緊急特別支援学校コーディネーターとして、大津支援学校等の先生に来てもらうことになりました。また同じく、地震に係る教育相談専門員派遣事業として、福岡県からスクールカウンセラーの先生にも来てもらっています。カウンセラーの先生は、午後半日ですが、夏休み前まで毎日来てもらえます。

